

隠崎隆一 事に仕えて

KAKUREZAKI RYUICHI Serving for Integrity



1.「芯韻」2002年 h33.0

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132 <http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は7頁をご覧ください。

展覧会に関するお問い合わせ 担当:島崎(☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132)

拝啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この度は、当館の次回展覧会「隠崎隆一 事に仕えて」展のご案内をさせていただきます。

本展は、現代の備前焼を代表する陶芸家である隠崎隆一（かくれざき・りゅういち）氏の作品の全貌をご紹介します展覧会です。

隠崎氏は1950年に、長崎県の五島列島、椛島（かばしま）に生まれました。大阪芸術大学でグラフィックデザインを学び、卒業後はデザイン会社勤務を経て、岡山県備前市で伊勢崎淳氏（現・重要無形文化財「備前焼」保持者）に師事し、独立後は同県瀬戸内市長船に窯を築いて作家として歩んできました。土の特性を見極め、徹底して焼成にこだわり、自ら志向する斬新でデザイン性の高い造形で魅せる隠崎氏の作品は、備前焼の表現に新生面を切り開いています。

「事に仕えて」とは「自然への畏敬の念とあるがままの心を表現すること」という隠崎氏の作陶理念を表した言葉です。本展では、1983年の修業時代に制作された作品から造形性の高い彫刻的な作品および、食器、茶碗など最新作にいたるまでの約55点により、30年にわたる隠崎氏の仕事をご紹介します。

敬具

■■■展覧会概要■■■

- 展覧会名 隠崎隆一 事に仕えて
- 会期 2014年1月18日(土)～3月30日(日)
- 観覧料 一般1,000円／大学生800円／小中高生500円
- 主催 公益財団法人菊池美術財団
- 会場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし月曜祝日の場合は開館、翌日休館）
- 展示内容 1983年から最新作品まで、約55点

■■■ 展覧会内容のご案内 ■■■

■ 隠崎隆一の備前焼 ■

備前焼は、平安時代末期に現在の岡山県備前市周辺で成立した、およそ 800 年の歴史をもつ焼き物です。釉や絵付けを施さない焼締め陶で、素朴な土の風合いと、炎の赤い走りや灰が掛かって生まれる様々な景色を見どころとします。現在、備前焼は食器、花器、茶器など実用の器から作家の表現としての作品まで幅広く制作されています。

隠崎隆一氏は、備前という伝統ある窯業地に他県から移り住み、独自の造形を備前の技法と土を用いて追求してきた作家です。それは、代々家で蓄えている土を持たない外部参入の作家にとって、可塑性が高く質の良い備前の「田土」を入手することが難しいという事情があったため、隠崎氏の造形的な作品は、手に入る土で何を作るのか、という土による制約と自身の造形意識とが合わさって生まれたものと言えます。

土への意識

隠崎氏の土に対する意識を如実に表すのが「マーブル」の作品群です(図版 2, 8)。地層の上の方の作陶には向かない粗悪な土をベースに、わずかに田土など数種の土を押し固めて土塊を作り、必要な分をスライスして使用するものです。図版 3 を見ると混ざりきらない数種の土がマーブル状に模様を描いています。その土で、主に食器、茶碗、茶器、花器、結界など実用可能な作品を敢えて制作しています。粗い土であるため、そのままでは水漏れの可能性など実用にそぐわない点が出てきますが、内側に釉薬をかけたり、マーブルの土の間に別の土を挟んだり、実用に叶うよう配慮がなされています。これは、備前の良質な「田土」が限りある資源である現状を踏まえたもので、「田土」に頼らない制作を考えた、備前焼の将来を見据えた隠崎氏ならではの試みといえます。

斬新でデザイン性の高い造形

その時々々の隠崎氏の想いを留める造形は、独創的かつユーモラスです。「ファランクス」は古代ギリシャで考案された重装歩兵による密集陣形の名称で、図版 4 の形態は西洋の甲冑を思わせます。「北想」(図版 9)は苦難に立ち向かう心を北に向かう鳥に見立てたもので、「芯韻」(図版 1)は廢墟のような造形に祈りの光景(Scene)を表したものです。自身の想いと高い造形感覚の融合が、斬新で明快な形態を生み出しています。それらの形態は多様ですが、ロクロ成形の後に変形させたり、石膏型や手びねり、タタラなど様々な方法を形作られ、表面には全体に細かい削りを施し質感を出すなど、作為を凝らしたものです。

徹底した焼成

焼成には、窖窯(あながま)、登窯、電気窯を使用しています。隠崎氏は、過去の作品について、形だけでなく焼成まで含めて再制作が可能である、と言います。薪をくべて焼く窖窯と登窯は、温湿度や薪の状態など外的要因に焼成が左右されやすく、厳密に再現することは本来は不可能なものです。しかし、以上の言葉には、窯詰めによって炎の流れをコントロールし、焼成を突き詰めるのが作家である、という隠崎氏の強い自負が表れています。

隠崎氏の造形の全貌をご覧いただく展覧会にしたいと作品選定をした結果、その作陶人生全般に及ぶ 30 年間の作品から代表作をご紹介しますこととなりました。1983 年の修行時代の作品から、最新作まで約 55 点の展観となります。



2. 「備前壺」2013 年



3. 「マーブル」作品の接写(参考画像)



4. 「ファランクス」2013 年

■作家略歴

1950 長崎県福江市に生まれる、1973 大阪芸術大学卒業
1979 伊勢崎淳(現・重要無形文化財「備前焼」保持者)に師事。
1985 岡山県邑久郡長船町磯上に登窯を築く。
1986 独立、初窯を焚く。一水会陶芸展一水会賞受賞(90年)
1988 田部美術館大賞「現代茶の湯の造形」展大賞受賞(92年)
1990 日本工芸会正会員となる。
1992 日本の陶芸「今」100 選展出品(NHK 主催、パリ/日本各地巡回)、個展「赫のファランクス」(日本橋三越)
1994 個展「炎の世」(日本橋三越)
1995 MOA 岡田茂吉賞優秀賞、個展「ムーンスポット一位相」(赤坂グリーンギャラリー)
1996 日本陶磁協会賞
1997 フランス国立陶磁器美術館「備前焼千年の伝統美」展出品、個展「座の器達」(寛土里)、
1998 個展「北想」(赤坂グリーンギャラリー)、「南帰」(中村好古堂ギャラリー)
2000 ヘルシンキ美術館「茶の湯—現代の造形」展招待出品
2001 個展「Hiruko」(中村好古堂ギャラリー)
2002 台北県立陶磁博物館「International Asia-Pacific Contemporary Ceramics Invitational Exhibition」出品

個展「芯韻」(日本橋三越)
2003 菊池寛実記念智美術館「Japanese Ceramics Today」
2004 個展「事に仕えて」(天満屋/岡山)
2005 ポストン美術館「Contemporary Clay」展出品、翌年N.Y巡回
2006 個展「Generational Crossroads」展(ラコステギャラリー/アメリカ)、
2008 智美術館大賞「現代の茶陶」展優秀賞、個展「乖離」(中村好古堂ギャラリー)
2010 第3回智美術館大賞展 現代の茶—造形の自由 出品(智美術館)、現代工芸への視点「茶事をめぐって」(東京国立近代美術館)、個展「双」(日本橋三越)、個展「Zoi」(虎とらTORA展、現代陶芸寛土里/東京)
2012 個展「Una Mistura」(中長小西/東京)
2013 「現代の名碗」展(智美術館)



■その他貸出画像



5.「三足花器」2013年



6.「備前広口花器」2008年



7.「ガンバルマン」2007年



8.「三足羽皿」2006年



9. 「北想」1998年

■関連行事

展覧会会期中、講演会、ギャラリートーク、西洋館見学会などの関連行事を開催いたします。

●鼎談 当館 B1 階展示室にて

2月22日（土）午後3時より（観覧料のみ、聴講無料）

伊勢崎淳氏（重要無形文化財「備前焼」保持者）

×隠崎隆一氏

×唐澤昌宏氏（東京国立近代美術館工芸課長）

隠崎氏の師である伊勢崎淳氏と、唐澤昌宏氏をお招きして、隠崎氏の作品や備前焼の現在と未来についてお話しいたします。

●アーティスト・トーク

1月25日（土）、3月8日（土）

隠崎隆一氏ご本人に、作陶について、また展示作品についてお話しいたします。

いずれも午後3時より（観覧料のみ、聴講無料）

●ナイト・ミュージアム 当館 B 1 階展示室にて

閉館後の展示室で能楽笛方の藤田六郎兵衛氏による笛の演奏会を開催いたします。

3月8日（土）午後6時30分（開場6時15分）

演奏＝藤田六郎兵衛氏（能楽笛方藤田流11代宗家）

参加費＝3,000円（観覧料を含みます。当日観覧券をお持ちの場合は2,000円）

事前お申込み制・定員＝50名 お申し込みは当館まで（電話03-5733-5131）

●学芸員による ギャラリートーク 聴講無料 いずれも土曜日午後2時より

2月1日、8日／3月1日、22日、29日

●西洋館見学会（予約制・定員20名様）

2月15日（土）、3月15日（土） いずれも午前11時より

当館敷地内にある西洋館（登録有形文化財）は、大正時代に建てられた後、修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され、今日まで使用されている希少な建物です。通常、非公開の内部を上記の日程で限定公開いたします。

※西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏による）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含め、お一人様8,000円です。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館 (担当：島崎)

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03 - 5733 - 5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年/撮影者(記載がある場合)を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション					
<input type="checkbox"/>	1 「芯韻」	2002	h33.0cm	w45.0 cm	d45.0 cm	撮影:消忠之
<input type="checkbox"/>	2 「備前壺」	2013	h9.1cm	φ11.5 cm		撮影:消忠之
<input type="checkbox"/>	4 「ファランクス」	2013	h72.0cm	w46.0 cm	d30.5 cm	撮影:消忠之
<input type="checkbox"/>	5 「三足花器」	2013	h35.5 cm	φ16.5cm		撮影:消忠之
<input type="checkbox"/>	6 「備前広口花器」	2008	h38.5cm	w83.5 cm	d24.0 cm	撮影:消忠之
<input type="checkbox"/>	7 「ガンバルマン」	2007	h20.8cm	w24.3 cm	d18.9 cm	撮影:消忠之
<input type="checkbox"/>	8 「三足羽皿」	2006	h14.9cm	w93.5 cm	d54.5 cm	撮影:消忠之
<input type="checkbox"/>	9 「北想」	1998	h55.0cm	w34.0 cm	d21.0 cm	撮影:消忠之

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様

プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2014年1月17日(金) 14:00～

14:00～14:45 展示室にて、作品解説などギャラリートークを行います。展覧会場内ご撮影いただけます。
* 隠崎隆一氏にお話しいただく予定です。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1
・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8分
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8分
・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAXにて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	